



犬吠埼の朝日(千葉県銚子市)

関東の最東端に位置し、山頂や離島をのぞき、日本で一番最初に初日の出を見ることができる。



発行所  
東京都千代田区霞ヶ関  
財務ビル内(〒100-0013)

全国税労働組合

発行人 木村 和由  
電話 (03) 3581-3678  
FAX (03) 3507-0886  
振替口座 00140-2-68514

## 2022年の展望

2022年のえとは「みずのえとら」。陽気をはらみ、春の胎動(たいてう)を助けるという意味。冬が厳しいほど、若々しい生命力にあふれ、成長する年だといえます。

新型コロナウイルス禍では、日本の休業・失業保障の十分さ、経済協力開発機構(OECD)の中でも下位に落ち込んだ低賃金、医療・保健衛生の脆弱(せいじやく)さを浮き彫りにしました。昨年の総選挙では、自民党でさえ「賃上げ」を公約にせざるを得ない状況で

す。この20年余り、低額、ベアゼロ春闘が続きました。これを転換し、社会に波及させるには、労働者、労働組合が声を挙げ、要求し行動しなければなりません。

そこそが国内総生産(GDP)の6割を占める個人消費を引き上げ、経済を回復、成長させる鍵でもあります。賃金引き上げへ、団結する時です。

働き方めぐるせめぎ合い  
労働者を守るルールの  
動きが求められます。  
今こそ冷静な議論を  
今年3年に1度の参議院選挙が7月にあります。コロナ感染拡大による医療崩壊で多くの人が自宅に閉じこもるような政治を変えたい。自公政治の転換を訴える野党の議席を増やし、政治に緊張を取り戻さなければなりません。

連合通信

新年号から転載

## 高橋中央執行委員長 年頭のあいさつ

# いのちと健康が守られ安心して働き続けられる職場の実現を



職場のみなさん、明けましておめでとうございます。平素より、全国税の運動へのご理解、またご支援・ご協力に感謝申し上げます。

さて、国税職員を取り巻く状況は、当局の徴税強化策の下で、年々厳しさを増しています。『ゆとり』を求める声を戒めるように新たな施策が次々に持ち込まれ、『息づ

く暇も与えられない』ような実感を持っている方も少なくないと思います。庁当局は昨年の定期異動後、内部事務のセンタ

す。組織再編の過渡期において発生する新たな職員負担を当局はどう軽減してくれるのか、早急に職員に示すよう求めています。私たちが全国税は、職場からいっさいの差別やハラスメントのない職場の実現、不条理や無理解をなくし、ライフワークバランスが根ざした働きやすい職場への転換、そして第一に職員のいのちと健康、生活を守るための取り組みの推進。また、全国税結成時の目標の柱である「国民・納税者の権利を尊重した民主的な税務行政」を目指すことも忘れず、旺盛に運動を進めて参ります。

中央執行委員長  
高橋 誠



# 新型コロナワクチンの未接種者に強要するな 長官―基本的にはワクチン接種者で従事する



高橋 誠中央執行委員長



大鹿行宏国税庁長官

## 長官団交

全国税は12月3日、大鹿長官と今期二回目の団体交渉を行いました。交渉では、「調査・徴収事務にあつての新方針」対応、原口さんの分限免職撤回、確定申告期、公正で明朗な人事の確立の課題で要求実現を迫りました。

態宣言が解除されても抑制的な生活を送っている現状もあります。

また、来週から始まる国会の所信で、岸田総理が抑制的な行動を強化する方針を示すとも言われている。今回の新方針は勇み足だったとの評価を免れない。感染拡大が終息するまでは、9月までの対応を継続すべきです。

一方で、いまだ未接種の職員には、基礎疾患やアレルギー体質、家族の反対であったり、様々な事情を抱えている職員も少なくない。今回の方針は、その様な職員を追い込むものです。そこで、この方針を強行する場合

は次の4点を守ることを要求する。

(1) ワクチン未接種の職員に、接種の圧力をかけないこと。  
(2) 内部事務等への分担替えは、周りの職員に接種していないと推察され、いわゆるワクチン・ハラスメントに繋がる懸念があることから、全職員に丁寧な説明を行うこと。  
(3) 処遇や人事評価につ

いて、不利益扱いをし  
ないこと。  
(4) ワクチン未接種の非  
常勤職員の「雇い止を  
しないこと。

また、12月1日付けで  
確定申告期での対応につ  
いても発出されている  
が、特に申告会場を中心  
に従事する短期の非常勤  
職員の採用において、募  
集要項や面接時ではワク  
チン接種には触れないと  
しています。

いま正に署の現場で  
は、短期の非常勤職員の  
募集を掛けているところ  
ですが、短期の非常勤職  
員に応募される方は、若  
い人が多く応募すると聞  
いています。

会場の人員が足りなく  
なることが想定されま  
す。そこへの対応をどう  
するのか、加えて伺いま  
す。

長官 ワクチン・検査  
パッケージ制度を踏まえ  
て、感染リスクを軽減し  
、税務行政を円滑に遂行す  
るため当分の間、実地調  
査等は原則、ワクチン接  
種済みの職員に従事させ  
ることとした。また、令  
和3年分確定申告会場で  
従事する職員について、  
感染防止対策を実施して  
いくが、繁忙期であり平  
常時に比べれば格段に多  
数の来場者と一定期間、  
連続して面接することに  
なることを踏まえて、感

染リスクをさらに軽減す  
る観点から、ワクチン接  
種済みの職員に従事させ  
ることを基本とした。

確定申告会場について  
は効率的に運営する観点  
から、配置の柔軟化、挙  
署・局署間の応援体制の  
充実を図ることとしてい  
るが、来場者の急増など  
やむを得ない事情によっ  
て、ローテーションが組  
めない場合には、未接種  
職員が感染リスクの軽減  
策を徹底し従事すること  
はある。

こうした体制の構築  
は、職員の感染リスクを  
軽減しつつ適正公平な課  
税徴収の実現を図る任務  
を遂行するために行うも  
のである。

とりわけワクチン未接  
種者は、感染した場合、  
ワクチン接種者くらべ  
て重症化リスクが高いこ  
とから、今後の感染状況  
が見通せないなかで、そ  
うした職員の健康を守る  
ための配慮として行うも  
のである。

ワクチンの接種はあく  
まで本人の意思で受ける  
ものであり、望まない職  
員に強要したり、未接種  
であることを理由に人事  
上の不利益が生じたりす  
ることはあってはならな  
いこと。各職場に徹底  
し、ハラスメントの無い  
明るい風通しの良い職場  
環境の醸成について取り  
組んでいく。

## 障がい者に配慮した 人事評価へ見直しを

全国税 原口朋弥です。  
第一回の長官交渉からも  
申入れを行っているとお  
りですが、私は本年6月  
末、東京局局長より、意  
に沿わない分限免職処分  
を行われ、たゞいま人事  
院にて審査請求中です。

もともとは、人事評価  
が恣意的に行われ続けた  
こと、管理者等のパワハ  
ラが絶えなかったこと、  
障がい者にかかる職場の  
理解不足等、人事評価を  
行った管理者側に瑕疵が  
あると思う気持ちに変わ  
りありません。この突然  
の処分により生活の糧が  
絶たれ、再就職の道が途  
絶え、高齢の両親にも迷  
惑が掛かっております。

大鹿長官におかれまし  
ては、「事案の調査を行  
った上で処分の撤回を  
し、私を職場復帰させる  
ように」と東京局局長へ  
指示をしていただくよう  
に、また心ある措置を強  
く希望します。

全国税 例えば先日、東  
京局の調査課が「障害を  
有する職員の人事評価に  
ついて」という新しいイ  
ラスト入りの簡易な手引  
きを発出したが、まだま  
だ全部の管理者が障がい  
を有する職員を抱えて部

門運営や人事評価を行う  
ということに慣れていな  
いのが実態だ。

国税の職場において  
は、3年前の障がい者の  
雇用問題があつてから本  
格的に問題視するようにな  
ったのではないかと。そ  
れまでは、どちらかとい  
うと職員に障がいがある  
と分かった途端に、その  
職員を排除する方向で考  
査課や担当副署長が動い  
ていたことを私自ら見聞  
きしている。ここにいる  
原口さんについても、仮  
に病気休職明けから手引  
きに沿った運用がされて  
いれば、分限免職に至っ  
ていないはずだ。そこで、  
庁として、障がいの特性  
を考慮に入れた人事評価  
を採用時までに遡って行  
い、評価を見直すよう東  
京局に指導すること。

全国税 人事院の審査請  
求に対する東京局の答弁  
書が届いた。ひと通り読  
ませてもらった。

①ADHDの症状につい  
て、当局の文書でもどの  
ような症状か書いている。  
障がいの有無を問わ  
ず、覚えが悪い職員はい  
る。その場合、分かりや  
すいチャートや図を描い  
て指導している。しか

し、原口さんは、そうい  
う教え方をしてもらった  
ことがあまり無いとい  
う。教える側の能力のせ  
いでD評価を受け、免職  
されるのはかわいそう  
だ。②答弁書によれば、  
些細なことを含めて、原  
口さんは「ダメ出し」を  
繰り返されている。出  
口を塞がれることを繰り返  
されれば自信が無くな  
ってしまい、萎縮し、何  
もできなくなる。する  
と、何も言えないと言わ  
れる。③令和3年4月7日  
の副署長と統括官との面  
談では、1時間にわたっ  
て、ずっとダメ出しをさ  
れ続けている。最初の方  
こそ冷静に話しているよ  
うだが、どんどん熱がこ  
もり、テンションが上が  
っていることも読み取れ  
る。ようやく最後に原口  
さんは意見を求められ、  
「昔と比べて少しずつは  
良くなっている。自己研  
鑽を続けていきたい」と  
答えている。そういう切  
替ができるほどの職員  
が、免職される理由が分  
からない。

当局には、しっかりと  
見直していただき、解決  
をしてほしい。